

解説特集「トップスポーツを支援する情報システム・分析技術および大学体育の教育活動支援」

後藤田 中

(香川大学創造工学部, 学会誌編集委員会幹事)

1. はじめに

東京 2020 オリンピック開催を控え、学生ボランティア参加の連携が各大学等となされるなど、機運醸成に伴い、スポーツ・体育支援の活動の取り組みが着目されている。教育システム情報学の領域においても、これまで、センサや画像分析の手法などを用いてスポーツを含む運動の技能獲得支援に取り組む研究も見られる。昨今、人工知能やIoTによる新しい技術は、スポーツアナリティクスに代表されるように、分析を通じた新しい学びのアプローチを与えている。本特集では、トップスポーツならびに大学体育を支援する代表的な技術者・研究者に解説を依頼した。国立スポーツ科学センターの三浦智和先生に「トップスポーツを支援する映像・情報システムと関連技術」、また、徳島大学の谷岡広樹先生に「スポーツアナリティクスにおけるデータと AI 活用」、さらに、岡山大学の小林雄志先生に「大学教養体育における FD の動向」を寄稿いただいた。いずれもスポーツを支援する情報システム・分析技術、大学体育における領域の動向など、有益な記事である。

2. COVID-19 に関する影響と解説対応について

COVID-19 は世界に大きな影響を与え、東京 2020 オリンピックも 2020 年 7 月から翌年 2021 年への開催延期の決定がなされた。本特集では、各先生方に執筆を 2020 年 3~4 月にかけて執筆いただき、一部の内容は、同影響の対応などを意識した形で言及いただいた。

本解説特集に寄せられた映像・情報システムや分析に関する技術は、試合・練習も実施困難な状況のなか、指導者と選手が離れた指導環境やセルフトレーニング環境には欠かせない状況となっている。また、指導者や選手自身が情報分析に注視する時間的猶予が生まれており、ポジティブにとらえれば、スポーツアナリティクスをアナリストのみならず、多くの選手自身が着目する契機となるかもしれない。さらに、実技を伴う大学体育科目においてはオンライン授業への対応が困難であるなかで、大学体育の遠隔授業を検討するうえで、大学体育が持つ価値を俯瞰する契機につながる可能性もある。そのなかで教育システムが果たす役割に光が当たる可能性がある。本解説特集が、このような状況に関連する読者にも寄与することを願っている。

3. おわりに

最後にスポーツ・体育を含め、一刻も早く、教育（コーチング）・学習（トレーニング）を支障なく実施できる環境に戻ることを期待してやまない。一方で、この危機下の試行錯誤が、本来の教育目標を保ち、新しい学びのアプローチを生み出す転機となることも期待したい。また、来年のオリンピックに向け、本解説特集がスポーツアナリティクス研究への関心を高める契機ともなれば幸いである。なお、解説記事を執筆いただいた 3 名の先生方も、COVID-19 の影響により、勤務先の閉鎖によるリモートワークやオンライン授業の対応に追われる状況下にもかかわらず、発刊に向けた当初の日程と変わらず寄稿いただいたことに謝意を表す。